

ごあいさつ

みなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
また、新型コロナウイルス感染症により影響を受けている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

さて、ここに、ディスクロージャー誌「113期営業のご報告(2020年4月1日～2021年3月31日)」を作成いたしましたので、ご高覧いただきたいと存じます。

本誌では決算概要や業務内容、地域貢献に関する取組状況などをまとめており、当行について一層のご理解を深めていただければ幸いです。

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、個人消費や企業活動は著しく停滞しました。鹿児島県経済においても、個人消費や公共投資に持ち直しの動きがみられるものの、観光・飲食関連において厳しい状況が続いており、先行きの不透明感は強まっているものと考えられます。

このような環境のもと、当行においては、2020年度からスタートした第五次経営強化計画に掲げた各種施策に取組み、新型コロナウイルス感染症の影響により、一段と厳しい状況にある事業者や個人のお客さまの支援に注力してまいりました。

今後においても、当行の主たる営業基盤である鹿児島県を中心とした経済の回復・活性化に向けて、これまで以上に多面的かつ安定した金融サービスの提供を通じて、みなさまのご支援にお応えできるように銀行全体で取組んでまいります。

引き続き『地域に責任を持つ“真の金融機関”』として、「南日本銀行グループSDGs宣言」に掲げる地域の課題解決への取組みを進め、持続可能な社会の実現を目指してまいりますので、皆さま方には、当行の取組みに対しまして、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年7月

取締役頭取 齋藤 眞一



取締役頭取 齋藤 眞一

CONTENTS

- 経営理念・経営強化計画 1
- 当行の考え方 2～4
- 中小企業の経営の改善及び
地域の活性化のための取組みの状況 5～6
- 2021年3月期業績ハイライト(単体) 7～9
- 地域とお客さまの発展のために 10～12
- 組織・ネットワーク 13～16
- 資料編 17～59

シンボル・マーク



「南日本銀行」の頭文字「M」をデザイン化したものです。楕円の1つは南日本銀行であり、もう1つは地域を表現しています。

2つの楕円が緊密な結合をし、地域と銀行、お客様と銀行、人と人との密接な関わり、信頼関係、また、銀行内のしっかりした団結をも意味しています。

「M」は変化し、限りなく拡大するイメージを想起させ、互いに寄り添い、シンプルな形状の中にも、銀行の持つ力強さ、未来性が表現されています。

本冊子は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料(業務及び財産の状況に関する説明書類)です。本資料に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しております。

当行の概要



本店所在地	鹿児島市山下町1番1号
創業	1913(大正2)年9月4日
資本金	166億1百万円
店舗数	本支店64カ店 (本支店61、出張所3) ※ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による実店舗数62カ店
従業員数	878人 (嘱託・パート・出向者含む)
主要勘定(単体)	総資産 8,600億円 預金残高 7,762億円 貸出残高 5,908億円 (2021年3月末現在)